

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡邊 言也			
添付ファイル			

講義概要	本講義は、ヒトを含む動物の脳のメカニズムと行動の関係について、基礎から最新の知見までを網羅的に学ぶ。 全15回のうち、前半は担当教員が、院生が抱いた脳や神経に関する疑問を事前に受け取り、それらの理解に必要な知識を教示するとともに、参加者内で感想や疑問など議論する。後半は、各自が選んだ神経科学に関連した一般書を読み、その内容についてプレゼン形式にて発表する。 授業の質は受講生のアクティブさに依存するので、率先して議論に参加していただきたい。 ※1～8名の受講生を想定。それ以上の場合には、形式変更の可能性あり。
授業計画	1 オリエンテーション 発表方法や聴講する際の注意について簡単に説明する。 話題提供の方法について説明する。 課題図書を紹介する。 2～7 生活の中に溢れる脳の不思議を体感する。 毎週、皆から集めた話題提供内容に対して、担当講師が神経科学的視点で基礎から答える。 その後、参加者同士でこのトピックについてディスカッションする。 AL③⑤ 8～14 脳の不思議について話題を提供する。 各自異なる課題図書を読み、興味を持ったトピックスに関して、その内容を紹介する。 参加者の人数にも依存するが、目安として約1時間のプレゼンを最低1回は行なう。 AL⑤ 15 全体まとめ(予備日)
授業形態	対面による講義。ゼミ形式の発表と議論。 【前半7回程度】 毎週事前に「話題提供Form」に脳や心の疑問や教えてもらいたいことを投稿する(予習)。 渡邊は複数の疑問のうち、特に脳のメカニズムに迫ることのできるトピックスを1つか2つピックアップし、それについて理解に必要な基礎知識と、質問に関する回答を講義する。残り時間はそれに関して、参加者で議論し感想を述べあったり、講義に関連した新たな疑問を提案する。 【後半7回程度】 受講者各自が読んだ神経科学に関連した一般書の内容に関して、特に興味を持ったトピックスをまとめ、パワーポイントなどの発表者ツールを用いて1時間ほどのプレゼンを行なう。 アクティブラーニング：③:6回, ⑤:7回
達成目標	(1) 我々人間がどのように外界の情報を取り込み、知覚し、そして行動を決定しているのか、脳の情報処理システムの特徴を理解することを目標とする(基礎：知識・理解)。 (2) 世の中にあふれる神経科学に関する言説や宣伝に対して、その真偽を判断できるようになる(基礎：思考・判断)。 (3) 授業内容及び、メディアで扱われる神経科学的な内容について、意見を述べたり、疑問や話題を提供できるようになる(応用：関心・意欲・態度)。 (4) 正確な神経科学的理解に基づき、精神疾患を抱える人々や、脳の病気を患っている人々に対して、誠実に接することができるようになる(応用：技能・表現)。 これらの達成度は、毎授業内での話題提供・ディスカッション・発表にて評価する
評価方法・フィードバック	2/3以上出席すること。 全15回のうち、後半は受講生がパワーポイントによる発表を行なう。発表内容については教員が補足したり、コメントをする。少人数のゼミ形式なので、自ら疑問を示して建設的に討論する態度を身につけてもらいたい。そのために如何に授業中に議論に参加、貢献したかを重要視する。つまり、出席しても座って話を聞いているだけでは評価されない。どのようなコメントを述べたか、どれだけ議論に参加したかを評価する。
評価基準	上記評価方法の内容(総合点)について、60%以上を「可」とする。100点換算で、 秀：100～90点、優：89～80点、良：79～70点、可：69～60点、不可：59点以下で評価する。
教科書・参考書	【課題図書の例】 「脳のなかの幽霊」 V・S・ラマチャンドラン(著), サンドラ・ブレイクスリー(著), 山下 篤子(翻訳) 「幻覚の脳科学 一見してしまう人びと」 オリヴァー・サックス(著), 大田直子(翻訳) 「サブリミナル・インパクト: 情動と潜在認知の現代」 下條 信輔(著) 「習慣と脳の科学 どうしても変えられないのはどうしてか」 ラッセル・A・ボルドラック(著), 神谷之康(監修), 児島修(翻訳) 「意識はいつ生まれるのか 一脳の謎に挑む統合情報理論」 ジュリオ・トノーニ(著), マルチェッロ・マッスィーニ(著), 花本 知子(翻訳) 「脳と人工知能をつないだら、人間の能力はどこまで拡張できるのか 脳AI融合の最前線」 紺野 大地(著), 池谷 裕二(著) 「脳科学で解く心の病: うつ病・認知症・依存症から芸術と創造性まで」 エリック・R・カンドル(著), 大岩(須田)ゆり(翻訳), 須田年生(監修) 「なぜ私は私であるのか 一神経科学が解き明かした意識の謎」 アニル セス(著), 岸本 寛史(翻訳)

履修条件	「感覚生理」、「脳と情報」等の授業を大学（学部）で履修してあることが望ましいが、履修していない場合には相談にのり、理解度に応じて個別課題を指示する。
履修上の注意	参加者の興味分野や要望・理解度にあわせて、フレキシブルに対応したい。特に勉強したい本などがある場合には、積極的に申し出ください。
準備学習と課題の内容	毎週事前に「話題提供Form」に脳や心の疑問や教えてもらいたいことを投稿する（準備） 自ら選択した課題図書を読み、興味を持った内容に関して、深掘りして皆の前で発表する。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:15%, 思考・判断:15%, 関心・意欲:50%, 態度:5%, 技能・表現:15%